

痔について

医長・外科部長：鈴木 智貴

❖ はじめに

痔といわれてみなさんはどんな病気を連想されるでしょうか？お尻の穴（肛門）が痛い、肛門から血が出る、肛門にいぼが出来る……などなど、あるかと思います。そして出来る場所が肛門であるだけに、なったら恥ずかしい病気であると。このため自己診断をして売薬を買ってなおしたり、放置しておいたりしてかなり悪化してから診察を受ける方が多いようです。しかし我々医療者が患者さんにお話をお聞きすると実に多くの患者さんが痔の悩みをもっておられ、日本人の3人に一人が持っていると言われるほど多い病気です。

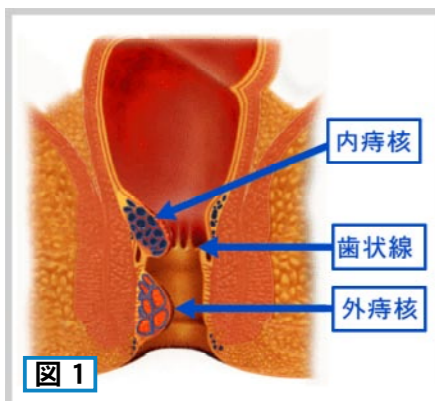
❖ 痔の種類

それでは痔にはどのような種類があるのでしょうか？

痔には3つの種類があります。

1. いぼ痔（痔核）

痔核は最も多い痔で、全患者数の50%以上を占めます。図1のように、歯状線より上に



できるものを内痔核、下にできるものを外痔核といいます。また、図2のようにはじめは出血するだけです

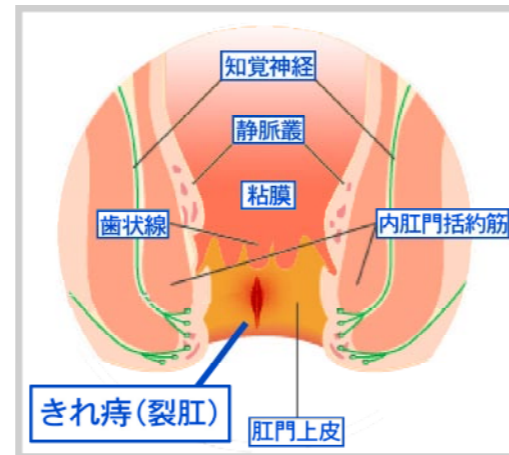
図2 痔核の重症度分類(Goligher分類)

分類	症状
I度	排便時に出血するが痛みはない
II度	排便時に脱出するが、排便後は自然に戻る
III度	排便時に脱出し、指で押さえないと戻らない
IV度	排便に関係なく常に脱出して戻らない

が、徐々に進行し、排便と共に外に出てきたり、押し込まないと戻らなくなったりします。

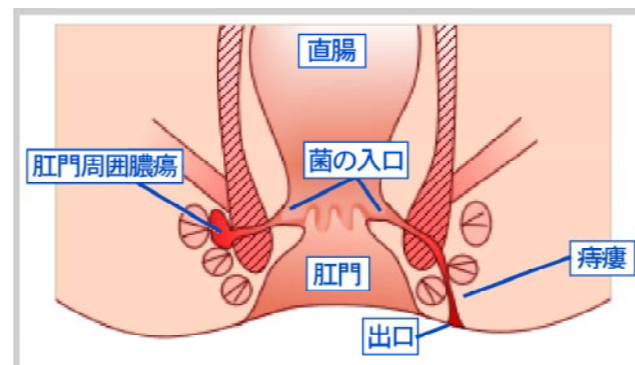
2. 切れ痔（裂肛）

裂肛は固い大便が肛門を通過するとき、肛門が裂けてできる病気です。出血とともに排便後にもつづく痛みがあります。



3. あな痔（痔瘻）

肛門の内側にある肛門腺というところに大便のなかの細菌が感染すると、肛門周囲膿



瘍といって、肛門の横が赤く腫れて膿を持ちます。この膿が肛門の外に出ると、膿の通り道が残ります。これを痔瘻といいます。



❖ 痔の治療

1. いぼ痔

いぼ痔は徐々に進行していきます。I度やII度のうちは軟膏や内服薬でおさめることができることもありますが、診察をしてみると広く広がっていることもあり、手術をした方がよい場合があります。

2. 切れ痔

切れ痔も同じように、軽いうちは軟膏や内服薬で治療可能です。しかし進行してくると肛門が硬くせまくなり、固い便で切れやすくなります。切れる→なおる→固く狭くなる→切れやすくなるという悪循環をくりかえしますので、手術をおすすめします。

3. あな痔

あな痔は放置しておくと排膿や出血を繰り返したり、ときには痔瘻がんという癌ができてしまいますので、手術をして切除した方がよいでしょう。

❖ 痔の新しい治療

最近では切らずに痔を治す硬化療法（ALTA療法）もあり、さまざまな手法を組み合わせることで治療可能になってきました。しかし必ずどんな痔でもできるわけではありません。

おしりの調子がわるかったり、痔でお悩みの方は、恥ずかしがらずに、ぜひ当院医師の診察を受け、ご相談ください。